

「終身サポート」を実現させるために

講師：中嶋 圭子 氏

(一社 日本ケアラー連盟理事 参加型システム研究所客員研究員)

日時：2026年3月5日(木) 15:30～17:30

場所：オルタナティブ生活館 301 会議室

開催：会場・オンライン (ZOOM) 併用

「終身サポート」とは、身寄りのない高齢者等や、家族がいても頼れない高齢者等が、医療・介護施設への入退院・入退所時の身元保証、財産管理、死後の事務手続き、日常生活の支援など、人生の終盤までのサポートを継続的に受ける仕組みです。

2040年に単身世帯が40%を占め、生涯未婚率は男性30.4%、女性22.2%と予測されています。さらに家族の構成人数が減少している状況から、実質的に身寄りがなく、サポートのない状況に陥る人たちが増え続けることが予測され、制度的に保証する仕組みはなくてはならないものとなっています。

現在、こうした状況に対し、血縁のない人たちが集まって葬儀などを行う、まちを大きな家族にするNPO法人抱樸の奥田知志さんの「希望のまち」構想や、民間、市民活動によるサポート活動が始められています。収入の多寡や資産の有無にかかわらず、希望する人すべてが利用できる、社会保障制度(生きる権利)として仕組みをしっかりと整備する必要があります。

神奈川県は「終身サポート」の「先進県」として国に対しても取り組みを進めるとしていますが、調査では、多くが終活支援(人生の終わり<死>のための活動)に留まっています。

終身サポートは誰でも直面する可能性のある問題です。老々介護も、いずれひとりになります。親族がいても、実質的に身寄りのない“おひとりさま”であることも多々あります。しかし現実には、事業者主導で「終身サポート事業」が展開しており、消費者被害など多発しています。単身社会が急速に進む中、安心して生活するために、終身サポート制度を早急に確立する必要があります。当事者目線で考える機会としたいと思います。ふるってご参加ください。

お申し込みはこちら→
締切り 2月28日

